

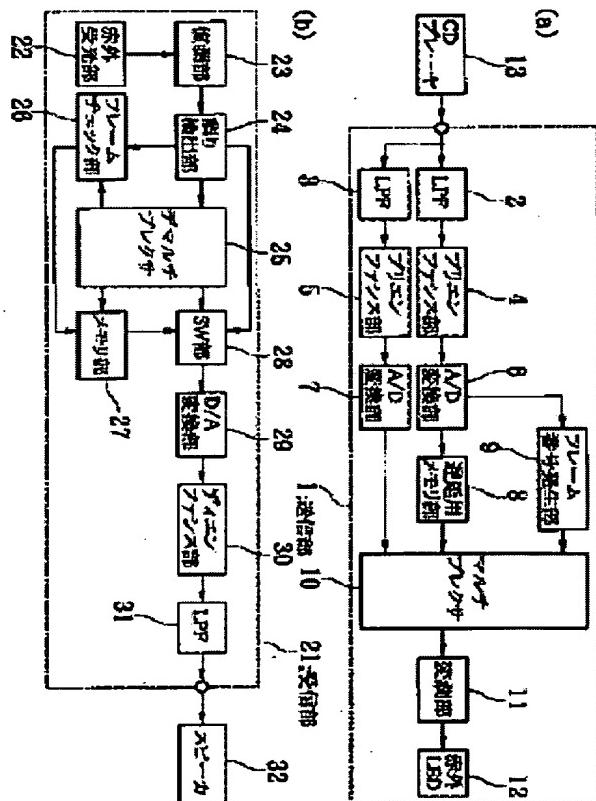
DEVICE AND METHOD FOR SOUND TRANSMISSION

Patent number: JP2001144733
Publication date: 2001-05-25
Inventor: KITAGAWA MASAYUKI
Applicant: NIPPON ELECTRIC CO.; NEC VIEWTECHNOLOGY LTD
Classification:
 - International: H04L1/00; H04B14/04; H04L1/08
 - european:
Application number: JP19990324716 19991115
Priority number(s): JP19990324716 19991115

Abstract of JP2001144733

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent sound from being interrupted due to an error data in a burst manner taking place over a long time in a voice transmitting device.

SOLUTION: In this introduced sound transmitting device, a transmitting part 1 is provided with a frame number generating part 9 generating the frame number of two-channel sound data, a memory part 8 for delay storing one sound data and a multiplexer 10 generating multiplexed sound information from the stored sound data, the other sound data and the frame number, and a receiving part 21 is provided with an error detecting part 24 detecting an error of one sound data in the multiplexed sound information, a frame checking part 26 detecting a frame number when an error is detected, a demultiplexer 25 dividing the multiplexed sound information, a memory part 27 storing the other divided sound data, and an SW part 28 outputting one divided sound data or the sound data of the frame number when the error is detected in the memory 27 in accordance with the existence/absence of error detection.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USP.0)

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-144733

(P2001-144733A)

(43)公開日 平成13年5月25日 (2001.5.25)

(51)Int.Cl.⁷

H 04 L 1/00
G 10 L 19/00
H 04 B 14/04
H 04 L 1/08

識別記号

F I

H 04 L 1/00
H 04 B 14/04
H 04 L 1/08
G 10 L 9/00

テーマコード(参考)

B 5 K 0 1 4
D 5 K 0 4 1
N

審査請求 有 請求項の数8 OL (全8頁)

(21)出願番号

特願平11-324716

(22)出願日

平成11年11月15日 (1999.11.15)

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(74)上記1名の代理人 100099830

弁理士 西村 征生

(71)出願人 300016765

エヌイーシーピューテクノロジー株式会社
東京都港区芝五丁目33番1号

(72)発明者 北川 真幸

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

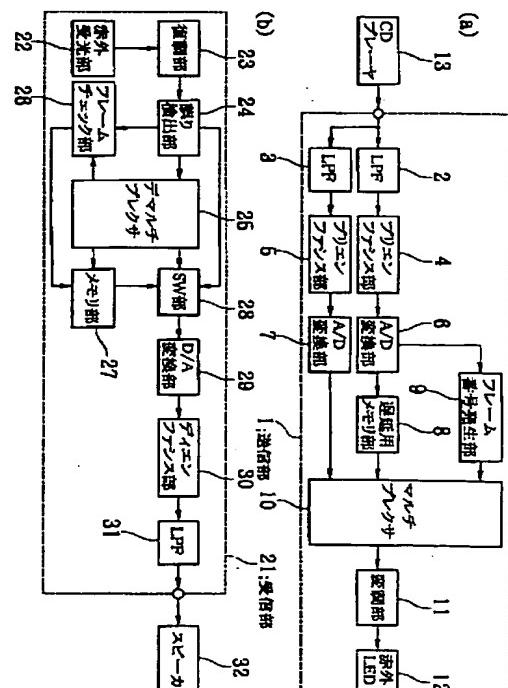
Fターム(参考) 5K014 AA01 BA01 DA05 EA01 FA06
5K041 AA02 CC01 FF01 FF06 GG01
GG05 GG11 HH21 HH43

(54)【発明の名称】 音声伝送装置及び音声伝送方法

(57)【要約】

【課題】 音声伝送装置において、長時間にわたって発生するバースト的なデータの誤りによって、音声がとぎれることを防止する。

【解決手段】 開示される音声伝送装置は、2チャネルの音声データのフレーム番号を発生するフレーム番号発生部9と、一方の音声データを蓄積する遅延用メモリ部8と、蓄積された音声データと他方の音声データとフレーム番号から多重化音声情報を生成するマルチプレクサ10を送信部1に備え、多重化音声情報中の一方の音声データの誤りを検出する誤り検出部24と、エラー検出時のフレーム番号を検出するフレームチェック部26と、多重化音声情報を分離するデマルチプレクサ25と、分離された他方の音声データを蓄積するメモリ部27と、誤り検出の有無に応じて、分離された一方の音声データ又はメモリ27の誤り検出時のフレーム番号の音声データを出力するSW部28を受信部21に備える。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 2チャネルのフレーム化された同一の音声データに対するフレーム番号を発生するフレーム番号発生手段と、一方のチャネルの音声データを蓄積する遅延用記憶手段と、該蓄積された一方のチャネルの音声データと、他方のチャネルの音声データと、フレーム番号情報とを多重して多重化音声情報を生成する多重手段とを送信部に備え、

前記多重化音声情報における前記一方のチャネルの音声データにおけるエラーを検出する誤り検出手段と、該エラー検出時の前記一方のチャネルの音声データのフレーム番号を検出するフレームチェック手段と、

前記多重化音声情報を分離する分離手段と、分離された前記他方のチャネルの音声データを蓄積する記憶手段と、前記エラーが検出されないと分離された前記一方のチャネルの音声データを選択し、エラーが検出されたとき前記記憶手段からフレームチェック手段で検出されたフレーム番号に対応する他方のチャネルの音声データを選択して出力するスイッチ手段とを受信部に備えていることを特徴とする音声伝送装置。

【請求項2】 前記音声データがステレオ音声データからなり、前記多重化音声情報が、4チャネルの音声データと、フレーム番号情報と、誤り訂正用データと、制御用データとを多重化したフォーマットを有することを特徴とする請求項1記載の音声伝送装置。

【請求項3】 前記多重手段からの多重化音声情報によって変調信号を生成する変調手段と、該変調信号によつて変調赤外光信号を発生する赤外光発光手段とを送信部に備え、

前記変調赤外光信号を受光して前記変調信号を出力する赤外光受光手段と、該変調信号を復調して前記多重化音声情報を復元する復調手段とを受信部に備えたことを特徴とする請求項1又は2記載の音声伝送装置。

【請求項4】 前記変調信号が、QPSK変調方式によつて生成されることを特徴とする請求項3記載の音声伝送装置。

【請求項5】 前記変調信号が、FSK変調方式によつて生成されることを特徴とする請求項3記載の音声伝送装置。

【請求項6】 前記音声データが、PCM符号化方式によつて生成されることを特徴とする請求項1及び2記載の音声伝送方法。

【請求項7】 送信側において、2チャネルの同一の音声データにおける一方のチャネルの音声データを遅延するとともに他方のチャネルの音声データと多重して伝送し、受信側において、受信した前記一方のチャネルの音声データにおけるエラーの有無に応じて、前記他方のチャネルの音声データを前記送信側における一方のチャネルの音声データの遅延時間と等しい時間遅延したデータ又は前記遅延した一方のチャネルの音声データを出力す

ることを特徴とする音声伝送方法。

【請求項8】 送信側において、送信入力における一方のチャネルの音声データと他方のチャネルの音声データとにフレームごとに同じ番号を付与し、前記一方のチャネルの音声データを遅延用記憶手段に蓄積して出力することによって遅延させるとともに、受信側において、前記他方のチャネルの音声データを記憶手段に蓄積し、前記一方のチャネルの音声データにおいてエラーを検出したとき、蓄積されている前記他方のチャネルの音声データにおける前記エラー検出時のフレーム番号の音声データを出力することによって、前記送信側の遅延時間と受信側の遅延時間とを等しくすることを特徴とする請求項7記載の音声伝送方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、デジタル化した音声信号を伝送する際に、バースト的なデータの誤りがあつても、音声をとぎれることなく伝送することができるようにするための、音声伝送装置及び音声伝送方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 音声信号を、赤外光や高周波(RF)信号等の搬送波を用いて伝送するためには、従来、種々の方式が提案されているが、一般的には、周波数変調(FM)方式等のアナログ伝送方式が主として使用されている。しかしながら、近年においては、音声伝送の高音質化のため、音声信号をデジタル信号に変換して伝送することによって、特に、信号対雑音(S/N)比を改善する方式が採用されることが多い。図3は、従来の音声伝送装置の構成を示したものであつて、音声をデジタル化して、赤外光伝送を行なう装置を例示している。

【0003】 図3(a)は送信部の構成を示している。

送信部101は、低域通過型フィルタ(LPF)102と、プリエンファシス部103と、アナログデジタル(A/D)変換部104と、変調部105と、赤外光発光ダイオード(赤外LED)106とからなっている。

送信部101に入力された、コンパクトディスク(CD)プレーヤ107からのアナログ音声信号は、LPF102によって周波数帯域を制限され、プリエンファシ

ス部103において、S/N比を改善するために高域成分を強調するプリエンファシス処理を行なわれたのち、A/D変換部104において、アナログデジタル変換及びPCM符号化が行なわれて、デジタル音声信号として出力される。変調部105では、このデジタル信号によって、赤外LED106を駆動する電気信号を変調し、赤外LED106は、この変調信号に応じて変調された赤外光信号を出力する。

【0004】 図3(b)は、受信部の構成を示してい

る。受信部111は、赤外光受光部112と、復調部113と、デジタルアナログ(D/A)変換部114

と、ディエンファシス部115と、低域通過型フィルタ(LPF)116とからなっている。受信部111に入力された変調赤外光信号は、赤外光受光部112で受光されて電気信号に変換され、復調部113で復調されてデジタル処理が可能な振幅まで増幅されたのち、D/A変換部114でデジタルアナログ変換及びPCM復号化が行われて、アナログ音声信号として出力され、ディエンファシス部115において、送信側のプリエンファシスと逆の特性によってディエンファシス処理を行なわれたのち、LPF116でD/A変換に伴う高調波成分を除去されて、スピーカ117から音声として出力される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】音声信号をデジタル化して伝送する際には、符号誤りに基づいて音質の劣化が生じるため、例えば、BCH(Bose-Chaudhuri-Hocquenghem)符号等の誤り訂正符号を伝送して受信側で誤り訂正を行う方式が知られており、これによって高品質でエラーの少ない音声伝送を行なうことができる。しかしながら、このような誤り訂正符号化伝送方式を用いた場合でも、訂正可能なのは、たかだか、1フレームにつき数ビット程度であって、バースト的に、例えば、秒単位のような長時間にわたって発生するデータの誤りがあった場合には、対応することができず、音声のとぎれが生じることを避けられないという問題があった。この発明は、上述の事情に鑑みてなされたものであって、秒単位のような、長時間にわたって発生するバースト的なデータの誤りによっても、音声のとぎれが生じることなく音声伝送を行なうことができ、従って、高品質の音声伝送を実現することが可能な、音声伝送装置及び音声伝送方法を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、請求項1記載の発明は、音声伝送装置に係り、2チャネルのフレーム化された同一の音声データに対するフレーム番号を発生するフレーム番号発生手段と、一方のチャネルの音声データを蓄積する遅延用記憶手段と、該蓄積された一方のチャネルの音声データと、他方のチャネルの音声データと、フレーム番号情報を多重して多重化音声情報を生成する多重手段とを送信部に備え、上記多重化音声情報における上記一方のチャネルの音声データにおけるエラーを検出する誤り検出手段と、該エラー検出時の上記一方のチャネルの音声データのフレーム番号を検出するフレームチェック手段と、上記多重化音声情報を分離する分離手段と、分離された上記他方のチャネルの音声データを蓄積する記憶手段と、上記エラーが検出されないとき分離された上記一方のチャネルの音声データを選択し、エラーが検出されたとき上記記憶手段からフレームチェック手段で検出されたフレーム番号に対応する他方のチャネルの音声データを選択して出力

するスイッチ手段とを受信部に備えてなることを特徴としている。

【0007】また、請求項2記載の発明は、請求項1記載の音声伝送装置に係り、上記音声データがステレオ音声データからなり、上記多重化音声情報が、4チャネルの音声データと、フレーム番号情報と、誤り訂正用データと、制御用データとを多重化したフォーマットを有することを特徴としている。

【0008】また、請求項3記載の発明は、請求項1又は2記載の音声伝送装置に係り、上記多重手段からの多重化音声情報によって変調信号を生成する変調手段と、該変調信号によって変調赤外光信号を生成する赤外光発光手段とを送信部に備え、上記変調赤外光信号を受光して上記変調信号を生成する赤外光受光手段と、該変調信号を復調して上記多重化音声情報を復元する復調手段とを受信部に備えたことを特徴としている。

【0009】また、請求項4記載の発明は、請求項3記載の音声伝送装置に係り、上記変調信号が、QPSK変調方式によって生成されることを特徴としている。

【0010】また、請求項5記載の発明は、請求項3記載の音声伝送装置に係り、上記変調信号が、FSK変調方式によって生成されることを特徴としている。

【0011】また、請求項6記載の発明は、請求項1及び2記載の音声伝送装置に係り、上記音声データが、PCM符号化方式によってデジタル化されることを特徴としている。

【0012】また、請求項7記載の発明は、音声伝送方法に係り、送信側において、2チャネルの同一の音声データにおける一方のチャネルの音声データを遅延するとともに他方のチャネルの音声データと多重して伝送し、受信側において、受信した上記一方のチャネルの音声データにおけるエラーの有無に応じて、上記他方のチャネルの音声データを上記送信側における一方のチャネルの音声データの遅延時間と等しい時間遅延したデータ又は上記遅延した一方のチャネルの音声データを出力することを特徴としている。

【0013】また、請求項8記載の発明は、請求項7記載の音声伝送方法に係り、送信側において、送信入力における一方のチャネルの音声データと他方のチャネルの音声データと同じフレーム番号を付与し、上記一方のチャネルの音声データを遅延用記憶手段に蓄積して出力することによって遅延させるとともに、受信側において、上記他方のチャネルの音声データを記憶手段に蓄積し、上記一方のチャネルの音声データにおいてエラーを検出したとき、蓄積されている上記他方のチャネルの音声データにおける上記エラー検出時のフレーム番号の音声データを出力することによって、上記送信側の遅延時間と受信側の遅延時間とを等しくすることを特徴としている。

【0014】

【作用】この発明の構成では、送信側で、音声データを2チャネル同時に伝送して、一方のチャネルの音声データを再生用音声データとして使用し、他方のチャネルの音声データを誤り訂正用音声データとして使用する。両チャネルの音声データを符号化したのちフレーム化して、再生用音声データは遅延させ、誤り訂正用音声データは遅延されることなく、多重して送信する。受信側では、それぞれのチャネルの音声データを分離し、誤り訂正用音声データは一定期間、記憶手段に蓄積し、再生用音声データは音声信号として出力する。このとき、音声データに誤りが発生したり、又はフレームに抜けが発生した場合は、記憶手段に蓄積されている誤り訂正用音声データから、誤り検出時のフレームを取り出して、再生用音声データに書き替えて出力する。従って、この発明によれば、音声データの伝送時に、例えば秒単位のような長時間にわたって発生する、バースト的なデータ誤りが生じても、音声をとぎれることなく伝送することができる。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して、この発明の実施の形態について説明する。説明は、実施例を用いて具体的に行う。図1は、この発明の一実施例である音声伝送装置の構成を示すブロック図、図2は、本実施例の音声伝送装置における音声データフォーマットを例示する図である。

【0016】この例の音声伝送装置において、送信部1は、図1(a)に示すように、低域通過型フィルタ(LPF)2, 3と、プリエンファシス部4, 5と、アナログデジタル(A/D)変換部6, 7と、遅延用メモリ部8と、フレーム番号発生部9と、マルチプレクサ10と、変調部11と、赤外光発光ダイオード(赤外LED)12とから概略構成されている。LPF2, 3は、それぞれ例えば、CDプレーヤ13からの、入力音声信号の周波数帯域を制限する作用を行う。プリエンファシス部4, 5は、それぞれLPF2, 3からの音声信号に対して、高域成分を強調してS/N比を改善するプリエンファシス処理を行なう。A/D変換部6, 7は、それぞれプリエンファシス部4, 5から出力されたアナログ音声信号をPCM符号化によるデジタル化して、誤り訂正符号を含む所定の音声符号化を行うとともに、所定のフレームに分割して、デジタル音声信号を生成する。遅延用メモリ部8は、A/D変換部6の出力信号を、一定期間、蓄積する。フレーム番号発生部9は、A/D変換部6における各フレームの音声データに対応して、フレーム番号を発生する。マルチプレクサ10は、A/D変換部7からの遅延されない音声データと、遅延用メモリ8から読み出された遅延された音声データと、フレーム番号発生部9からのフレーム番号情報を多重する。変調部11は、マルチプレクサ10からの多重された信号によって、赤外LED12を駆動する信号を変

調する。赤外LED12は、変調部11からの変調信号によって、変調された赤外光信号を発生する。

【0017】この例の音声伝送装置において、受信部21は、図1(b)に示すように、赤外光受光部22と、復調部23と、誤り検出部24と、マルチプレクサ25と、フレームチェック部26と、メモリ部27と、スイッチ(SW)部28と、ディジタルアナログ(D/A)変換部29と、ディエンファシス部30と、低域通過型フィルタ(LPF)31とから概略構成されている。赤外光受光部22は、受光した赤外光信号を電気信号に変換する。復調部23は、赤外光受光部22の出力信号を復調するとともに、所定の増幅を行う。誤り検出部24は、復調部23からの復調信号から誤り訂正符号を分離して、誤り訂正処理を行うとともに、フレームごとに誤り検出時、誤り検出信号と、誤り訂正時のフレーム番号とを出力する。マルチプレクサ25は、復調部23の出力復調信号から、遅延されない音声データと、遅延された音声データと、フレーム番号情報を分離する。フレームチェック部26は、誤り検出部24における誤り検出時、マルチプレクサ25からのフレーム番号情報をによって、誤り検出時のフレーム番号を検出す。メモリ部27は、マルチプレクサ25からの遅延されない音声データを蓄積する。SW部28は、誤り検出信号に応じて、マルチプレクサ25からの遅延された音声データと、メモリ部27から読み出された音声データとを切り替えて出力する。D/A変換部29は、SW部28からの音声データをPCM復号化しD/A変換して、アナログ音声信号として出力する。ディエンファシス部30は、D/A変換部29からのアナログ音声信号に対して、送信側のプリエンファシスと逆の特性によってディエンファシス処理を行なう。LPF31は、ディエンファシス部30からのアナログ音声信号に対して、D/A変換に伴う高調波成分の除去を行う。

【0018】以下、図1を参照して、この例の音声伝送装置の動作を説明する。図1(a)に示された送信部1に対して、例えば、CDプレーヤ(又はFMチューナ)13から出力されるステレオまたはモノラルの音声信号を入力すると、この音声信号は、2チャネルに分けられて、それぞれ、LPF2, 3を経て周波数制限され、さらに、それぞれプリエンファシス部4, 5において、S/N比を改善するための一般的手法であるプリエンファシス処理を施される。さらにそれぞれA/D変換部6, 7において、A/D変換と符号化とを行われるとともに、フレームに分割され、フレームごとに誤り訂正符号を付加される。以上の処理は、2チャネルとも同様の処理が行われる。その後、A/D変換部6からの一方のチャネルのデータは、再生用音声データとして遅延用メモリ部8に蓄積されたのち、マルチプレクサ10に入力され、他方のチャネルのデータは、誤り訂正用音声データとして、直ちにマルチプレクサ10に入力される。この

7
ように、再生用音声データをメモリに蓄積して遅延させることによって、誤り訂正用音声データを先行させて伝送することができる。例えば、1mS間のデータを1フレームとすると、2000フレームを遅延用メモリ8に蓄積することによって、誤り訂正用音声データを、2秒間、先行させることができる。遅延用メモリ8から読み出された再生用音声データと、A/D変換部7から出力された誤り訂正用音声データとは、フレーム番号発生部9からのフレーム番号情報とともに、マルチブレクサ10で多重される。この多重信号によって、変調部11で、赤外LED12を駆動するための変調信号を生成し、赤外LED12は、この変調信号に応じて変調赤外光を出力する。この場合の変調方式としては、赤外光で伝送可能な変調信号を生成可能な、例えば、QPSK (Quadrature Phase Shift Keying), FSK (Frequency Shift Keying) 等の変調方式を用いることができる。

【0019】図1(b)に示された受信部21では、赤外受光部22で、送信部1からの変調赤外光を受光して、電気信号に変換する。この電気信号は、復調部23において、復調されディジタル処理が可能な振幅まで増幅されたのち、誤り検出部24に入力される。誤り検出部24では、フレームごとに付加されている誤り訂正データから、誤り訂正の処理を行うとともに、フレームごとの誤りの発生や、フレームの欠落を検出して、誤り検出信号をSW部28に出力する。このとき、フレームチェック部26では、フレームごとに割り振られたフレーム番号から、エラーが生じたフレームのフレーム番号を検出して、メモリ部27に通知する。デマルチブレクサ25では、復調部23からの復調信号を、再生用音声データと誤り訂正用音声データとに分離して、再生用音声データをSW部28に出力し、誤り訂正用音声データをメモリ部27に出力する。メモリ部27では、入力された誤り訂正用音声データを蓄積する。SW部28では、誤り検出部24から、誤り検出信号を受けないときは、デマルチブレクサ25からの再生用音声データを選択する。しかしながら、SW部28では、誤り検出部24から誤り検出信号を受けたときは、メモリ部27に蓄積されていた誤り訂正用音声データを選択する。この際、メモリ部27では、蓄積されていたデータから、フレームチェック部26から通知されたフレーム番号を持つフレームの誤り訂正用音声データを読み出して、SW部28に出力する。従って、再生用音声データに、誤りの発生やフレームの欠落がないときは、再生用音声データが、SW部28から出力されて、D/A変換部29で復号化されて、アナログ音声信号として出力され、ディエンファシス部30で、ディエンファシス処理を行なわれたのち、LPF31でD/A変換に伴う高調波成分を除去されて、スピーカ32から音声として出力される。一方、再生用音声データに、誤りの発生やフレームの欠落があ

ったときは、メモリ部27に蓄積されていた誤り訂正用音声データから、誤り発生又はフレーム欠落検出時のフレームのデータがSW部28を経て出力されて、同様にして、D/A変換部29、ディエンファシス部30、LPF31を介して、スピーカ32から音声として出力される。

【0020】以下、この例における音声データの伝送方法について説明する。いま、送信装置の遅延用メモリ部8を構成するバッファメモリの容量が、N個のフレームを蓄積可能なものであるとする。この場合、送信側で、誤り訂正用音声データを基準として、フレーム番号を付与するものとすると、再生用音声データは、1番目からN+1番目までは、音声データがなく無音状態で伝送され、音声はN+1フレーム目から再生されることになる。これに対して、受信側では、校正用データ(誤り訂正用音声データ)として、先行して伝送された1番目からN+1番目までのNフレーム分の音声データを、受信装置のメモリ部27を構成するバッファメモリに蓄積する。伝送路上でエラーが発生した場合、受信側では、誤り訂正用符号を利用して誤り訂正を行うことによって、所定ビット数以内のデータの誤り訂正を行うことができる。しかしながら、所定ビット数を超えるような多量のデータ誤りが発生したときは、誤り訂正を行うことはできない。いま、伝送路上でエラーが発生し、M番目のフレームからn個のフレームが正しく受信されなかったとすると、M番目のフレームで誤りが検出されたときは、受信側のバッファメモリには、M+1番目からM+N番目までのN個のフレームが正しく受信されて蓄積されているので、受信装置では、バッファメモリから、M番目のフレーム以降のデータを読み出して、SW部28で、M番目以降の再生用音声データと置き替えることによって、正常な音声データを引き続いて復元することができる。この際、複数個のフレームにエラーが発生したとしても、Nフレーム分のメモリ容量の範囲内であれば、復元が可能である。すなわち、n ≤ Nが条件となる。

【0021】この例における音声データの形式として、衛星放送用のPCM音声伝送フォーマットを利用することができる。この音声伝送フォーマットは、図2に示すように、それぞれ10×32ビットからなるステレオ音声2チャネルと、その他のデータとして、フレーム同期データ16ビットと、制御符号16ビットと、音声レベルのレンジを示すレンジビットとして32ビットと、フレーム番号伝送のための独立データ480ビットと、誤り訂正データとして7×32ビットとからなる2048ビットを1フレームとして構成され、1フレームに1mSを割り当てることによって、1秒間に2048×10³ビットを伝送するものである。従って、伝送速度が2.048Mbpsのとき、占有帯域が2.048MHz(±1.012MHz)であるため、日本国内で規格化されている、高音質音声伝送帯域である2~6MHz

帯域内で伝送可能なものである。

【0022】このように、この例の音声伝送装置及び音声伝送方法によれば、送信側で2組の同じ音声データを伝送時間をずらせて伝送し、受信側で、先行して伝送された音声データを蓄積しておいて、通常は、後から送られた音声データを出力するが、このデータに伝送エラーが発生したときは、これを蓄積されていた同じタイミングの先行データと置き替えることによって、エラーのない正常なデータを連続して出力することができる。これによって、音声データを蓄積するためのメモリや、A/D変換器、D/A変換器、マルチプレクサ、デマルチプレクサ等の装置の追加が必要になるとともに、音声の伝送に遅延を生じるという不利はあるが、例えば秒単位のような、長時間にわたって発生するバースト的な音声データの誤りが生じても、音声をとぎれることなく伝送することができるという、従来、全く不可能であった機能を実現することが可能になる。

【0023】以上、この発明の実施例を図面により詳述してきたが、具体的な構成はこの実施例に限られたものではなく、この発明の要旨を逸脱しない範囲の設計の変更等があってもこの発明に含まれる。例えば、実施例では誤り検出時のフレーム番号と、音声データの切り替えを行うフレーム番号と同じにしているが、適当なフレーム番号の換算部を設ければ、必ずしも同じフレーム番号でなくてもよい。また実施例では、フレーム番号を利用して、再生用音声データと、誤り訂正用音声データとを切り替えるようにしているが、送信側における再生用音声データの遅延量と、受信側における誤り訂正用音声データの遅延量とを等しくする場合には、例えば、送信側の遅延用メモリ部8と、受信側のメモリ部27とに、同じビット数のFIFO(First In First Out)メモリを用いることによって、フレーム番号の管理を省略することも可能であり、これによって、簡易な装置の場合に、構成を簡単化することができる。さらに、実施例では、送受信装置間の音声データの伝送に赤外光を利用しているが、適当な周波数の無線信号を利用して、伝送するようにしてもよい。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、この発明の音声伝

送装置及び音声伝送方法によれば、送信側で伝送時間をずらせた2組の同じ音声データを伝送し、受信側で、先行して伝送された音声データを蓄積しておいて、通常は、後から送られた音声データを出力するが、このデータに伝送エラーが発生したときは、そのデータを蓄積されていた同じタイミングの先行データと置き替えることによって、エラーのない正常なデータを連続して出力することができるので、例えば秒単位のような、長時間にわたって発生するバースト的な音声データの誤りが生じても、音声をとぎれることなく伝送することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例である音声伝送装置の構成を示すブロック図である。

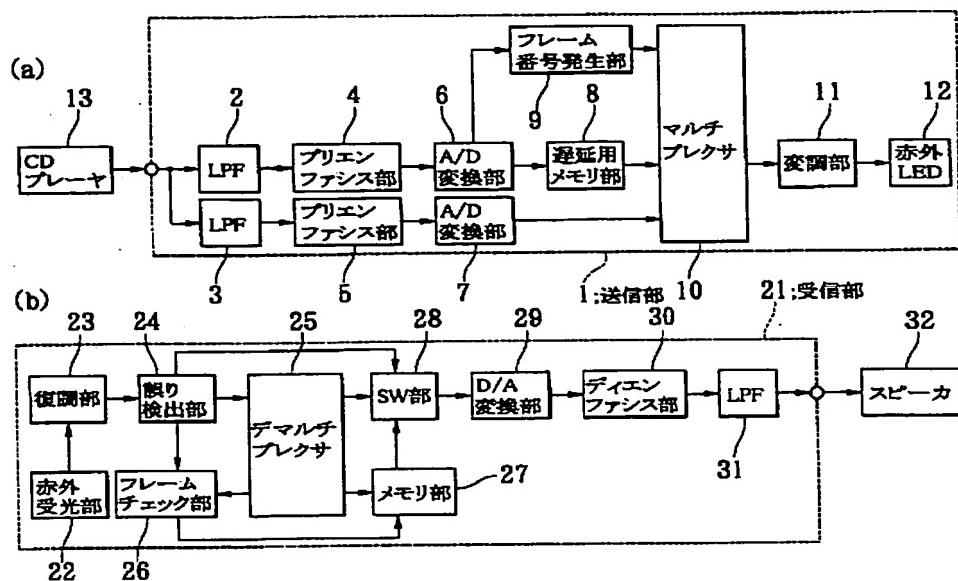
【図2】同音声伝送装置における音声データフォーマットを示す図である。

【図3】従来の音声伝送装置の構成を示す図である。

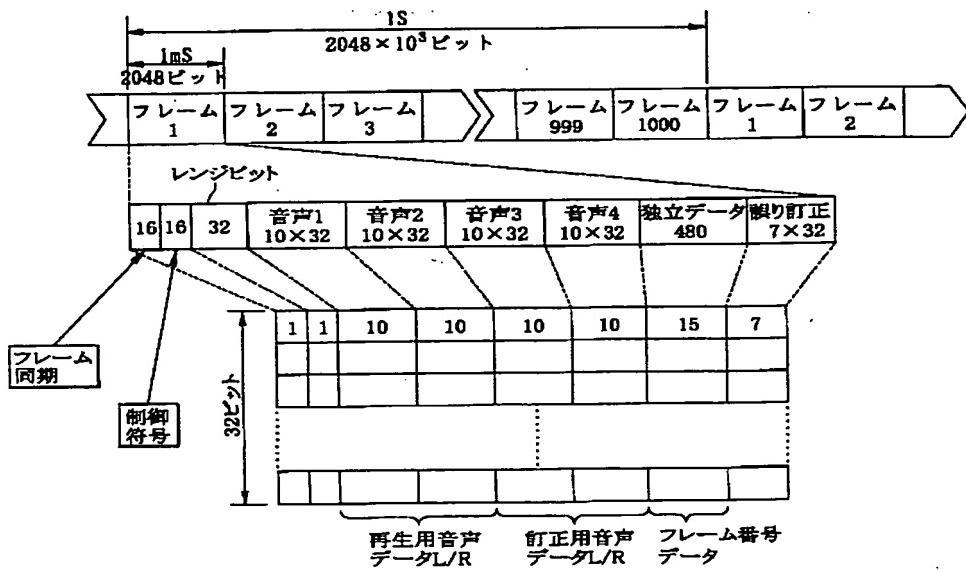
【符号の説明】

1	送信部
20	2, 3 低域通過型フィルタ(LPF)
4, 5	プリエンファシス部
6, 7	アナログデジタル(A/D)変換部
8	遅延用メモリ部(遅延用記憶手段)
9	フレーム番号発生部(フレーム番号発生手段)
10	マルチプレクサ(多重手段)
11	変調部(変調手段)
12	赤外LED(赤外光発生手段)
21	受信部
22	赤外受光部(赤外光受光手段)
30	23 復調部(復調手段)
24	誤り検出部(誤り検出手段)
25	デマルチプレクサ(分離手段)
26	フレームチェック部(フレームチェック手段)
27	メモリ部(記憶手段)
28	スイッチ(SW)部(スイッチ手段)
29	デジタルアナログ(D/A)変換部
30	ディエンファシス部
31	低域通過型フィルタ(LPF)

【図1】



【図2】



BEST AVAILABLE COPY

【図3】

